

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	公共土木事業における木製資材利用現地研修会（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県岩瀬郡天栄村大字牧之内権太倉国有林 外 平成22年11月26日
取組の背景及び必要性	間伐材の利用拡大の推進に向けては、公共土木事業においても発注者自らが間伐材の利活用を進めていくことが重要である。そのため、国有林、民有林における関係者が木材の利用促進の効果やコンクリート等に代わる木材利用の拡大に当たっての課題等について共通認識を図る必要がある。
取組の内容	阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した本研修会では、間伐材等を使用した民有林道、国有林治山施工地において、木材の使用状況を確認するとともに、施工に当たっての工夫や課題等について討議を行い、技術や課題の共有化を図った。
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 同白河支署 研修会の企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催。県農林事務所、県林業協会と連携、協力。 参加者募集、現地説明

【参考資料】

取組名 公共土木事業における木製資材利用現地研修会（継続）



- 民有林道における木材使用状況（のり面の保護と除草効果を期待）



- 発注者（福島県県中農林事務所）から木材の使用状況等を説明



- 国有林野内治山事業施工地における木材使用状況



- 発注者（福島森林管理署白河支署）及び施工者から木材の使用状況等を説明

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	間伐推進技術検討会（列状間伐現地検討会）（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ嶽国有林 平成22年11月29日
取組の背景及び必要性	<p>「森林・林業再生プラン」において、切り捨て間伐から利用間伐への転換が方向付けされた。高性能林業機械等による作業システムにおいて、間伐材の搬出に有利な列状間伐については、管内国有林において定着してきているが、民有林においては限定的な採用に留まっている。</p> <p>利用間伐を推進し、流域内の木材の安定的な供給体制を構築するには、民有林所有者・行政担当者の列状間伐への理解が必要である。</p>
取組の内容	<p>国有林において、過去（3年前、7年前）に列状間伐を実施した林分の経年変化を現地において確認することにより、列状間伐の有効性を認識してもらうとともに、県の試験研究機関から「列状間伐の得失」と題した調査結果を発表してもらい、列状間伐の効果的な実施を目指した検討会を阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した。</p> <p>検討会では、生産性の向上を目指す林業事業体、民有林家を指導する市町村、列状間伐を先駆的に行っている国有林等それぞれの立場から普及・定着に向けた意見が交わされた。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 同白河支署 企画運営、現地説明
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催 福島県農林事務所、同県林業研究センター、林業事業体と連携、協力：参加者募集、現地説明

【参考資料】

取組名 間伐推進技術検討会（列状間伐現地検討会）（継続）



←
列状間伐実施後3年経過した林分（伐採・搬出した業者より、当時の状況等について解説）

→
列状間伐実施後7年経過した林分（林冠が閉鎖し、間伐効果が出現している状況を確認）



←
福島県林業研究センターの主任研究員より「列状間伐の得失」と題した試験研究成果を報告

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	コンテナ苗木植付実演会（低コスト造林研修）（新規）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	郡山市三穂田町大字下守谷字妙見山国有林 （平成22年5月18日） 田村市船引町大字石沢字桑柄木国有林 （平成22年10月8日）
取組の背景及び必要性	<p>木材価格が低迷する中で、低コスト化に向けた造林技術の普及・定着が課題となっている。</p> <p>当署においては、平成21年度から他に先駆けてコンテナ苗木を導入し、植栽から下刈までの「初期費用」の縮減を目指した実証的な事業に着手しており、コンテナ苗木の成長量等データの蓄積・共有化等による成果の波及が期待されている。</p>
取組の内容	<p>参加者が自らコンテナ苗木の植樹を体験する実演会、コンテナ苗木の特徴や課題等について関係者の認識を共有化させるための検討会を阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した。</p> <p>更に、他へ普及するための成長量等の調査方法や成果の取りまとめに当たっての検討会を、阿武隈川流域林業活性化センター、福島県林業研究センターと連携して実施した。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 同白河支署 ：企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催。 福島県農林事務所、福島県林業研究センターと連携。 ：参加者募集、企画運営

【参考資料】

取組名 コンテナ苗木植付実演会（低コスト造林研修）（新規）



←
コンテナ苗木の生産者から、苗木の特徴等について説明

→
参加者全員が、自らコンテナ苗木を実際に植え付け、作業性の良さ等を実感



←
全員でコンテナ苗木の特徴や推進に当たっての課題等について討議

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	森林環境教育総合対策事業（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島森林管理署白河支署 福島県岩瀬郡天栄村大字羽鳥字一本木国有林内 「遊々の森 風車と湖と太古（湖地区）」 実施日：平成22年10月15日（金）
取組の背景及び必要性	これまでに引き続き、「遊々の森」を活用して森林体験活動を実施することにより、森林に関する知識を高め、地域の森林環境の理解と自然保護に対する意識の高揚を図り、環境教育を推進する地元町村に協力していく。
取組の内容	天栄村立牧本小学校（5，6年生）を対象に、森林の働きについて講義を行い、さらに「遊々の森」内で野鳥の巣箱設置作業を実施した。
国有林担当部局・役割	関東森林管理局指導普及課・福島森林管理署白河支署 役割：講師派遣及び森林環境教育用教材準備、森林体験の指導と補助
連携協働相手先・役割	連携相手先：天栄村、天栄村立牧本小学校 役割：日程、学習体験内容の検討と森林管理署との調整

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	森林環境教育総合対策事業（新規）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島森林管理署白河支署 福島県岩瀬郡天栄村大字湯本字二俣国有林内 「遊々の森 風車と湖と太古（太古地区）」 実施日：平成22年9月13日（月）
取組の背景及び必要性	これまでに引き続き、「遊々の森」を活用して森林体験活動を実施することにより、森林に関する知識を高め、地域の森林環境の理解と自然保護に対する意識の高揚を図り、環境教育を推進する地元町村に協力していく。
取組の内容	福島県ふるさと雇用再生特別事業（天栄村受託）の「二地域居住事業」として、都市部の学生や社会人が農村に居住滞在し、農山村から地域の様々な文化や風習を学ぶ「スタディツアー」の一環で、国有林の「遊々の森」を活用した森づくりを学ぶ取組を実施。当取組は天栄村より講師派遣依頼されたもので、対象者は大学生1名・緑のふるさと協力隊1名・天栄村農村交流事業担当者1名の計3名 「森林の様々な働き」と国有林の役割等について、遊々の森内で講義しながら樹木とのふれあいを通して学習した。
国有林担当部局・役割	関東森林管理局指導普及課・福島森林管理署白河支署 役割：講師派遣及び森林環境教育用教材準備
連携協働相手先・役割	連携相手先：天栄村、天栄村農村交流事業担当部局 役割：日程、学習体験内容の検討と森林管理署との調整

【参考資料】

取 組 名 森林環境教育総合対策事業（新規）

福島県ふるさと雇用再生特別事業（天栄村受託）
「天栄村ステイター」(遊々の森を活用した森づくり)

受講生3名に対して、「国有林」「遊々の森」等について講義



「遊々の森」内に入り、ブナの天然林について講義。



平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	民有林・国有林が連携した森林施業の効率化の推進（新規）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県石川郡古殿町 古殿町役場 実施日：平成23年1月12日（水）
取組の背景及び必要性	京都議定書のCO2森林吸収目標達成等に向け、森林施業の低コスト化等の取組が不可欠となっている。このため民有林・国有林が連携したより一層の効率的な森林整備の推進を図ることが必要である。
取組の内容	古殿地域森林整備推進協定に向けた事前協議。 （福島県県中農林事務所、古殿町、福島森林管理署白河支署、阿武隈川流域林業活性化センターの4者） 森林共同施業団地の設定及び覚書、協定書の締結に向けた取組を行った。 （H23.1.12 白河支署・古殿町・県中農林事務所・流域活性化センターの4者で打合せ協議実施。H23.2.21 県知事と局長の覚書締結。 H23.2.25 古殿町において本協定締結。）
国有林担当部局・役割	関東森林管理局計画課・福島森林管理署白河支署 役割：共同施業団地設定箇所の国有林区域選定、各種調整作業等
連携協働相手先・役割	連携相手先：古殿町、福島県県中農林事務所、阿武隈川流域林業活性化センター 役割：民有林側の設定箇所選定、各種調整作業等

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	フィールド提供等、NGO・ボランティア団体等民間団体が行う森林整備等への支援（新規）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島森林管理署白河支署 福島県石川郡古殿町（古殿町公民館） 実施日：平成22年10月30日（土）
取組の背景及び必要性	地域の重要な水源である森林について、国有林として体験フィールドの提供を行い、地域住民および近隣町村等の住民に理解を深めてもらう。
取組の内容	福島県土地改良事業団体連合会が行う「農業用水水源地域保全対策事業」に係る「あぶくまの水源を歩こう」イベント実施に伴い、地元古殿町国有林内の「鎌倉岳」及び鮫川源流を散策し、農業用水と水源林との関わりを参加者（100名）に理解してもらいながら、併せて、森林の他の様々なはたらきや国有林について講義を行い、最後に「福島県森の案内人」の方々の指導により木工作教室を実施した。
国有林担当部局・役割	関東森林管理局指導普及課・福島森林管理署白河支署 役割：講師派遣と水源林としての森林の役割についての講義
連携協働相手先・役割	連携相手先：福島県土地改良事業団体連合会・あぶくま地域づくり推進機構・水土里ネット福島 役割：日程、イベント内容の検討と森林管理署との調整等

【参考資料】

取組名	フィールド提供等、NGO・ボランティア団体等民間団体が行う森林整備等への支援（新規）
-----	--

「あぶくまの水源を歩こう」

「鎌倉岳」や「鮫川源流部」を散策後、古殿町公民館での昼食・水源林についての講話・木工作教室を実施した。

主催者からの午後のスケジュール等説明。



地元特産品を使った昼食が振る舞われる。



森の案内人による指導での木工作教室



できあがった木工作品

